



羽田空港の運用状況や最新の動向を広くお知らせするために、ニュースレターを発行しています。



到着したお客さままで混雑する羽田空港第3ターミナル（国際線）ビルの様子（2023年2月中旬）

もくじ

『もっと知りたい羽田空港』 （羽田空港のこれから情報コーナー）OPEN	1ページ
羽田空港の主な飛行経路	2ページ
羽田空港の発着回数	2ページ
羽田新飛行経路に関する問い合わせ状況	2ページ
羽田空港の滑走路運用割合	3ページ
羽田新飛行経路に係る騒音測定結果	4ページ
航空機の落下物対策と部品欠落に関する情報	6ページ
羽田新飛行経路を飛行した航空機の航跡	7ページ
トピック 『羽田エアポートガーデン』開業	8ページ

新飛行経路の運用が開始され約3年

羽田空港の2022年度上半期の運用状況（発着回数、問い合わせ状況、滑走路運用割合、騒音測定結果、落下物対策と部品欠落情報、航跡）を中心にお知らせします。

2023年4月1日よりOPEN

『もっと知りたい羽田空港』

（羽田空港のこれから情報コーナー）

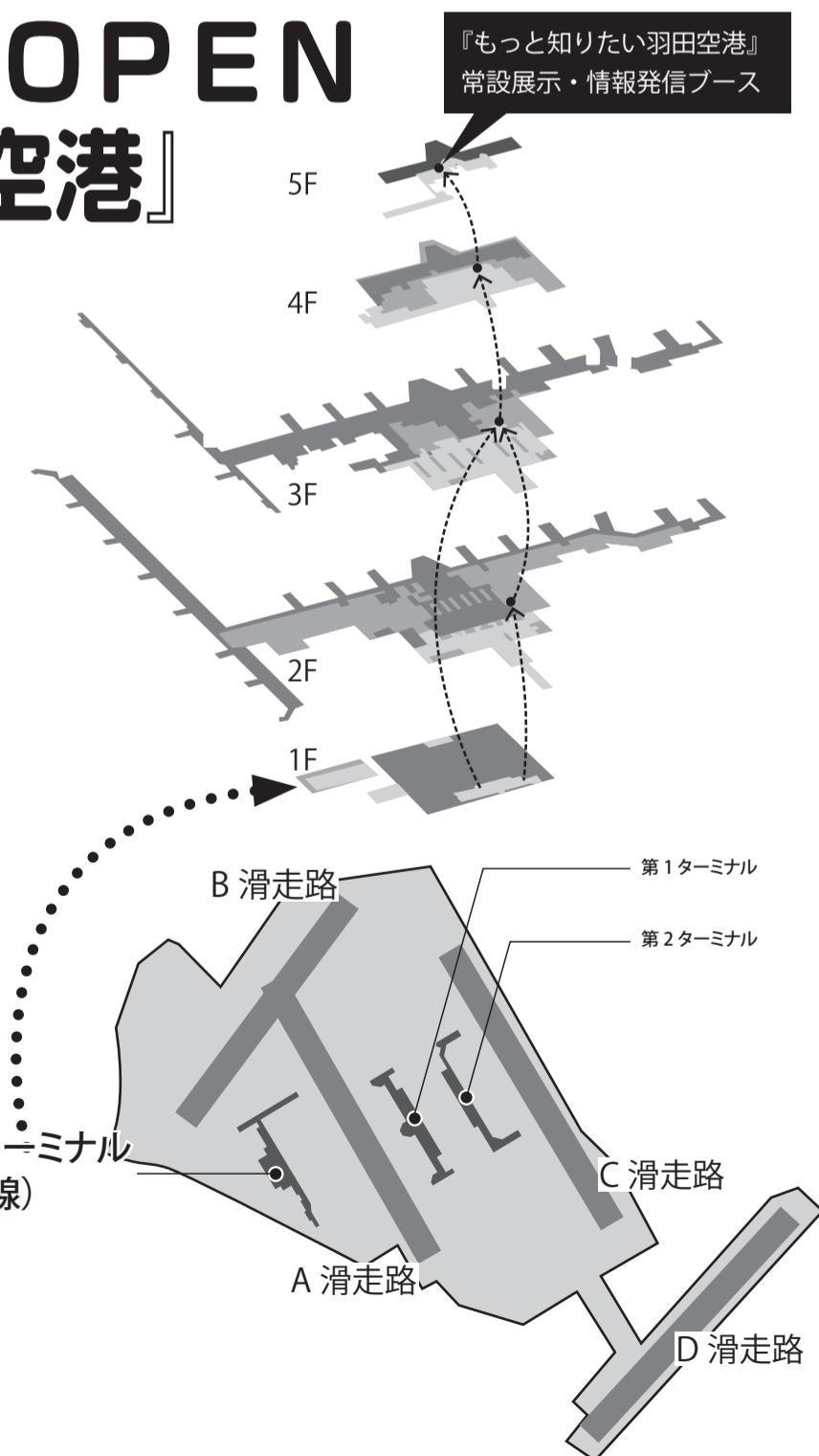
羽田空港の社会的意義や機能強化理解促進を図るため、4月1日より、羽田空港第3ターミナル（国際線）5階展望デッキ手前に『もっと知りたい羽田空港』（羽田空港のこれから情報コーナー）を開設します。

大画面のデジタルサイネージでは、羽田空港の役割や羽田空港を支える人、機能強化に関する情報等の動画を視聴できます。

また、デジタルサイネージの両脇に設置されている参加型ユニット（タッチパネル式）では、デジタルサイネージの情報をさらに詳しく知ることができます。

そして、地域観光PR動画用モニターでは、羽田空港周辺やその他地域の観光情報もご覧いただけます。

羽田空港へお出かけの際は、ぜひお立ち寄りください。



『もっと知りたい羽田空港』
常設展示・情報発信ブース

第1ターミナル
第2ターミナル

B 滑走路

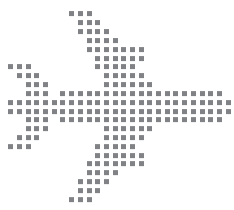
C 滑走路

A 滑走路

D 滑走路

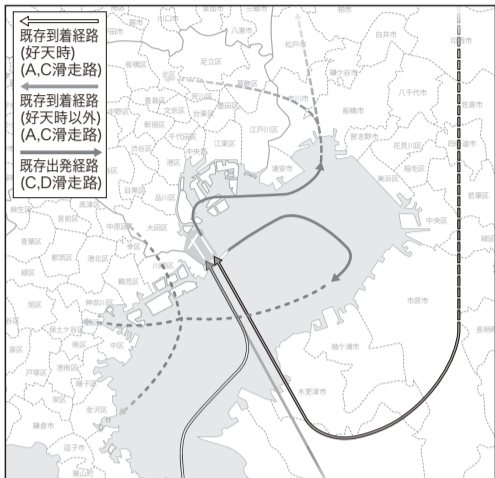
第3ターミナル
（国際線）

羽田空港

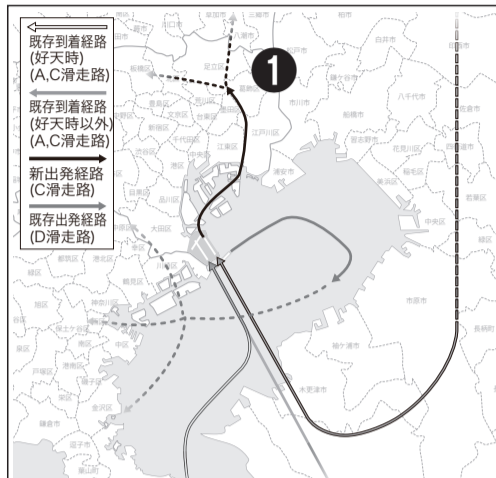


羽田空港の主な飛行経路 (新飛行経路は①～③)

北風運用時 (北風運用の割合は約 6 割)

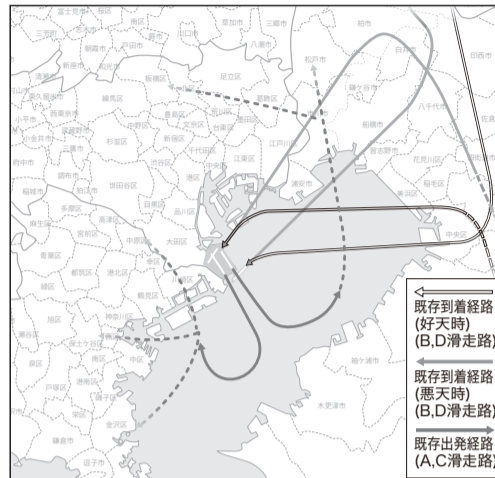


6時～23時のうち、右記以外

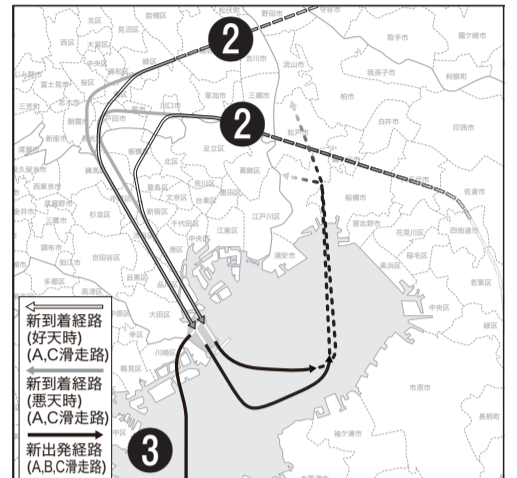


7時～11時半、15時～19時のうち3時間程度

南風運用時 (南風運用の割合は約 4 割)



6時～23時のうち、右記以外



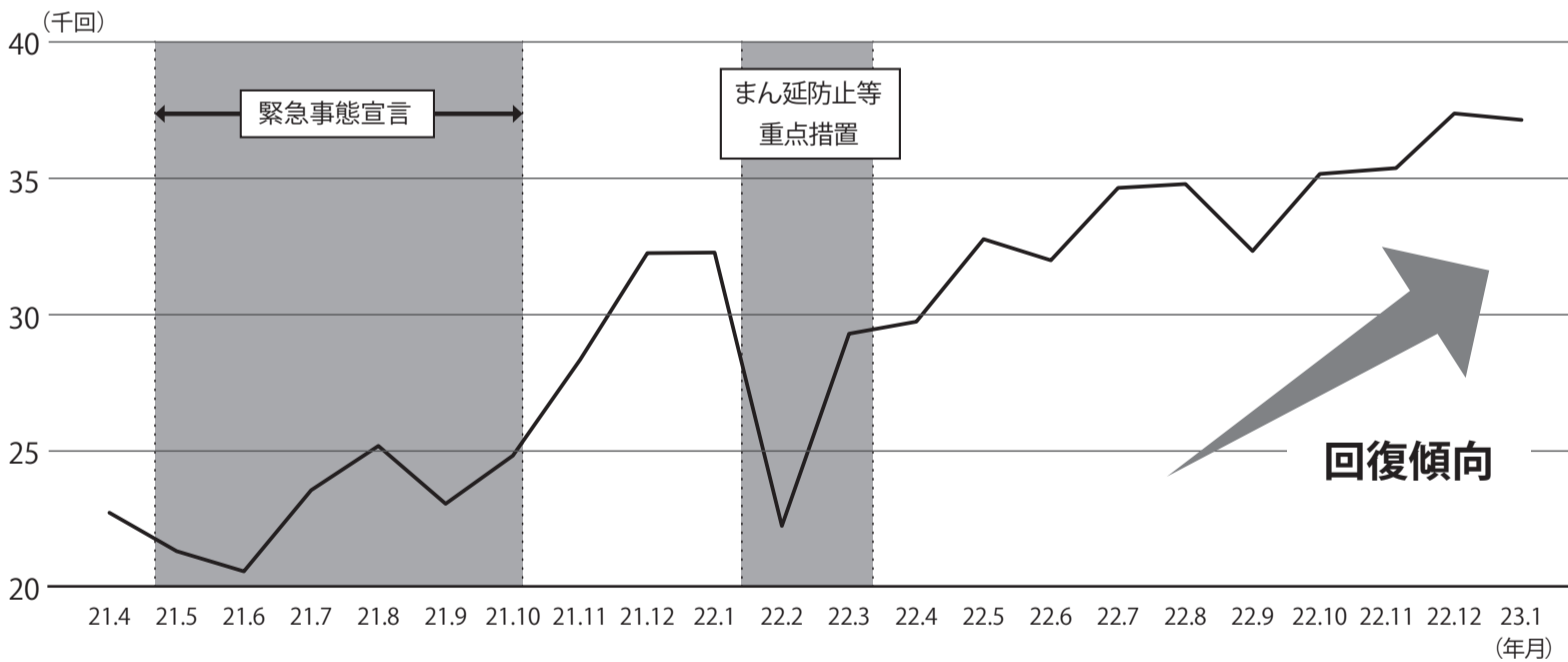
15時～19時のうち3時間程度

羽田空港の飛行経路は北風運用と南風運用に分けられます。

北風運用では、①離陸後に荒川を北上する経路(7時～11時半と15時～19時のうち3時間程度)、南風運用では、②埼玉から東京を經由して着陸する経路と③川崎方面へ離陸する経路(15時～19時のうち3時間程度)が、従来の経路に加えて新たに追加されました。



羽田空港の発着回数



※ 2022年4月～2023年1月は速報値

左のグラフは2021年4月から2023年1月までの羽田空港の発着回数です。2022年度は2021年度と比較して発着回数がコロナ禍前(2019年度月平均約38千回)の回数に戻ってきていることが確認できます。

2021年度までは新型コロナウイルス感染拡大の影響により一時的に発着回数は落ち込みましたが、緊急事態宣言解除後は回復傾向にあり、2022年10月11日から実施されている水際対策の大幅な緩和や全国旅行支援により需要回復の傾向が強まっています。



羽田新飛行経路に関する問い合わせ状況 (2022年4月1日～10月31日)

期間	国	コールセンター	合計
4月	100	311	411
5月	99	465	564
6月	86	395	481
7月	52	233	285
8月	82	201	283
9月	37	357	394
10月	48	223	271
合計	504	2185	2689

■主な問い合わせ内容

- ・騒音・落下物に対する懸念について
- ・経路や高度、風向きの判断基準等について
- ・資産価値の下落や騒音による健康被害、防音等にかかる補償について
- ・コロナウイルスの影響により減便となっている状況下での新ルート運用中止の要望について
- ・羽田新経路の固定化回避に係る技術的方策検討会の検討状況等について
- ・チラシ配布及び配架によるご意見受付



羽田空港の滑走路運用割合をお知らせします

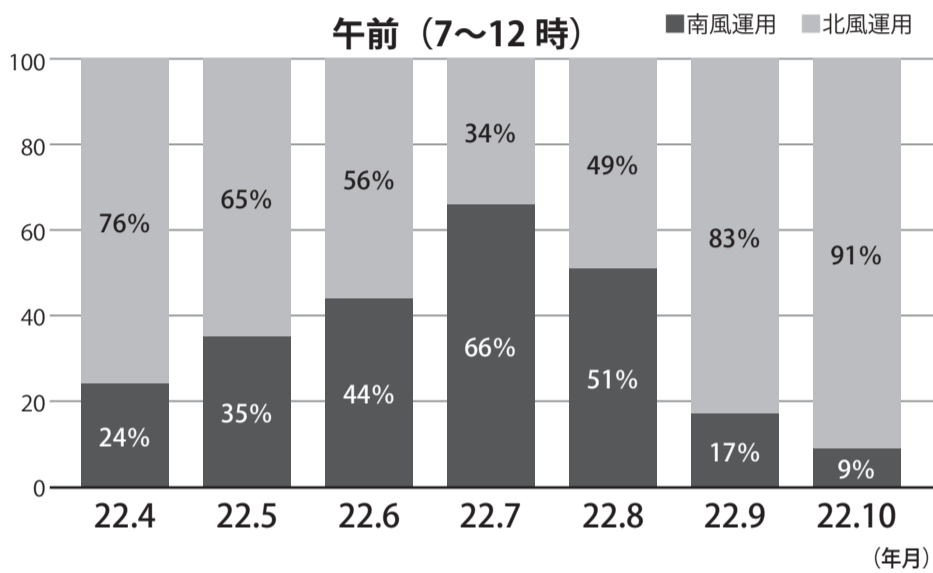
(暖かい時期は南風運用、寒い時期は北風運用が多い傾向)

■北風運用・南風運用の割合(2022年4月1日～10月31日)

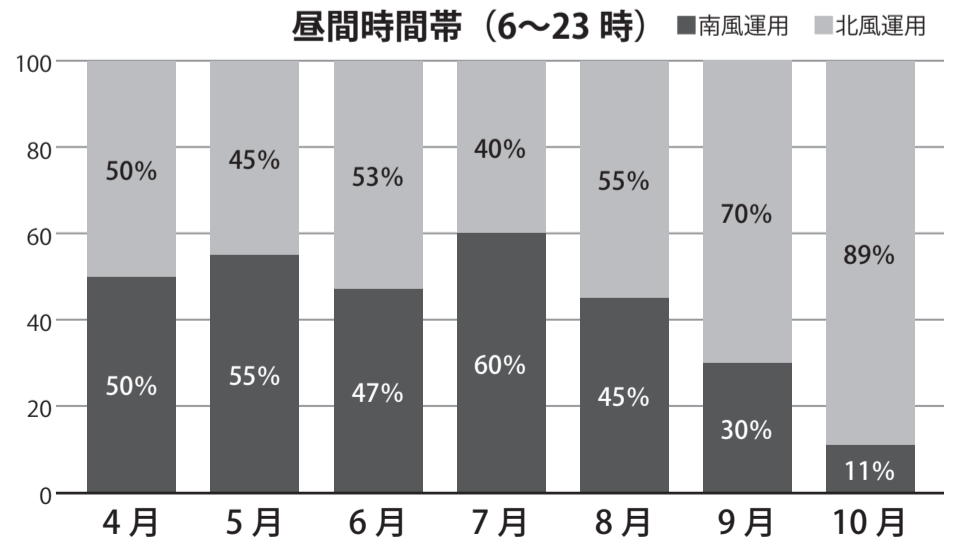
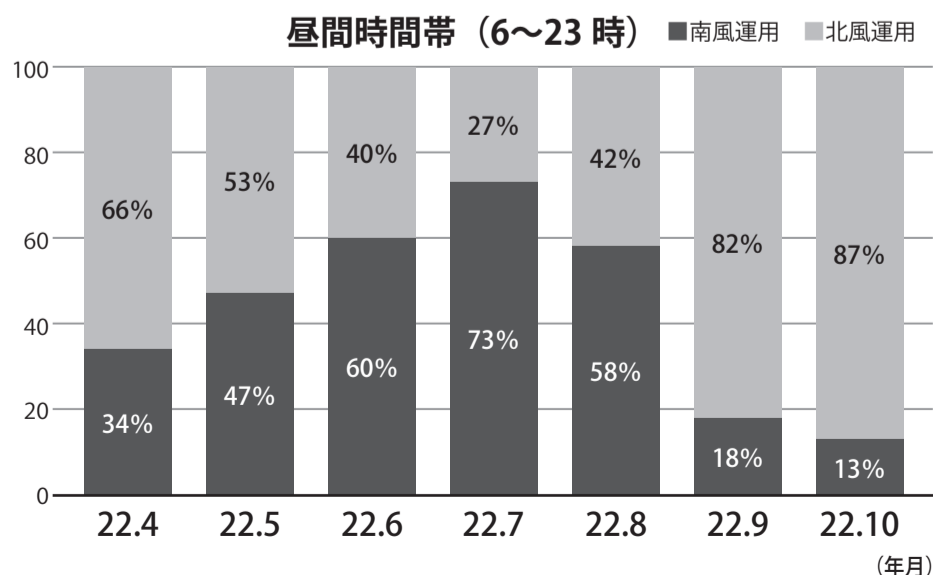
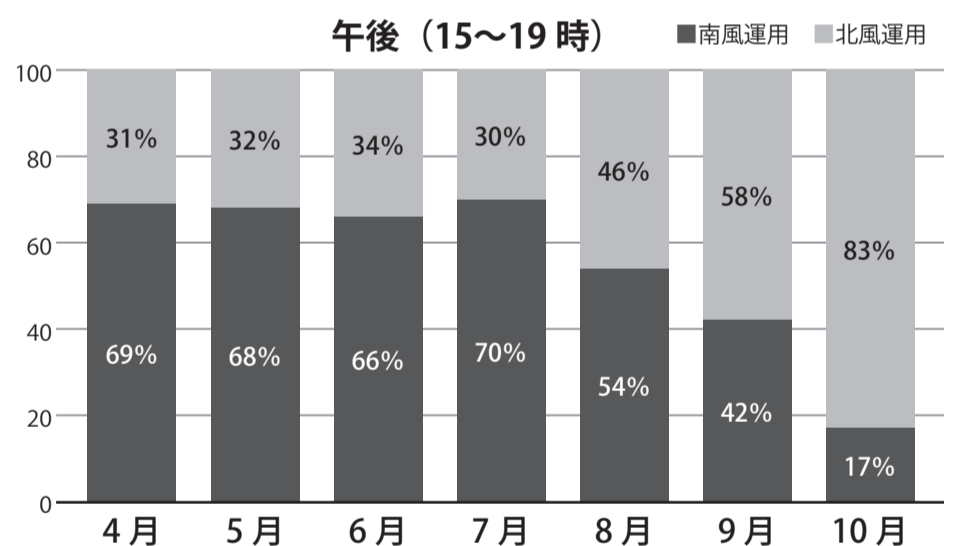
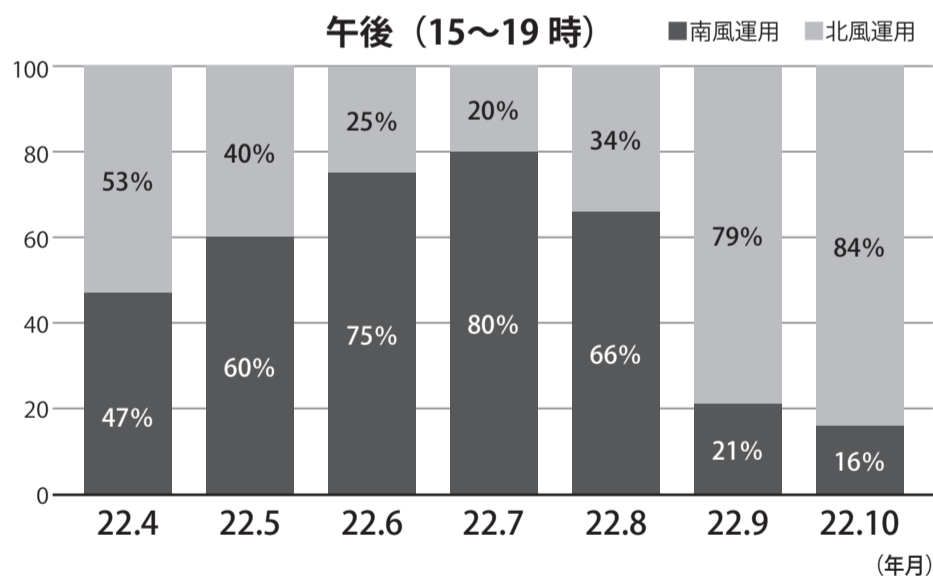
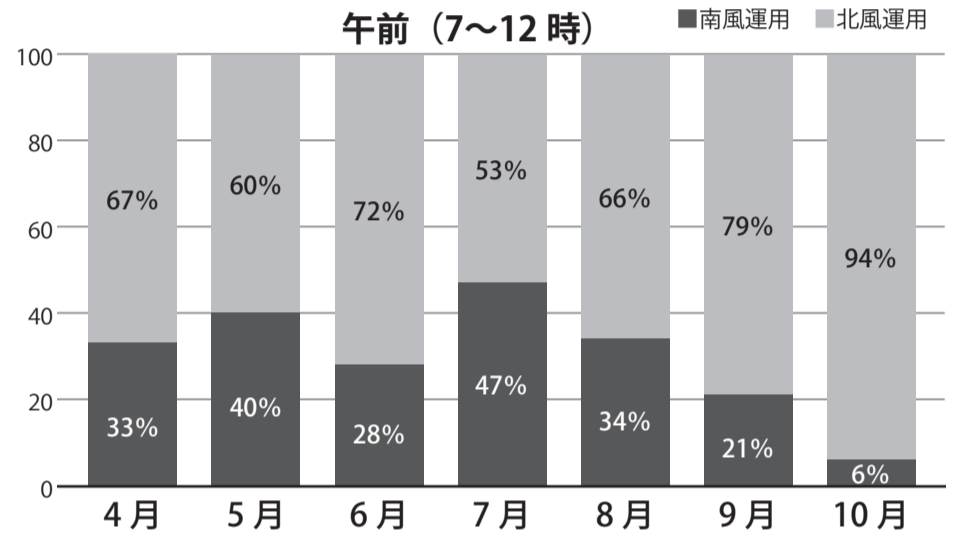
航空機は風に向かって離陸し、風に向かって着陸します。風向き等により滑走路の運用は、「北風運用」「南風運用」があります。

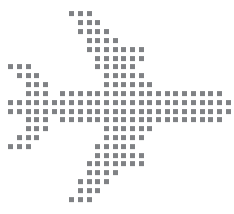
羽田空港では北風・南風の運用割合が、「午前」「午後」「昼間時間帯」別に公表されています。2022年4月～10月の北風・南風の運用割合は、過去3年間の割合とほぼ同じ割合となりました。月別の割合も、過去3年間の割合と同様におおむね4月～8月は南風運用が多く、9月～10月は北風運用が多い傾向の運用割合となりました。

2022年4月1日～10月31日



[参考] 2016-18年3カ年の月別北風・南風運用割合





羽田新飛行経路に係る騒音測定結果についてお知らせします

2022年4月1日から10月31日の期間、19箇所の騒音測定局で騒音測定を実施しとりまとめを行いました。

騒音軽減対策の効果として、航空機の降下角の引き上げと低騒音機の使用による騒音軽減効果が継続的に確認できています。騒音測定局ごとのLden（航空機騒音評価の指標）について上記期間で集計したところ、24.8dB～56.6dBであり、航空機騒音における環境基準値^{※1}である57dBを下回っています。

なお、機体サイズ別の実測値（各航空機が通過したときに発生した騒音の最大値）の平均で比較したところ大型機は61.1dB～82.8dB、中型機は60.7dB～82.8dB、小型機は60.7dB～83.6dBでした^{※2}。

また、結果については新型コロナウイルスの影響により、通常より航空機の便数が少なく、かつ、小型化・軽量化の状況下であることに留意する必要があります。このため、引き続き騒音状況を継続的にモニタリングするとともに、測定結果の分析を行い、騒音対策に取り組んでまいります。

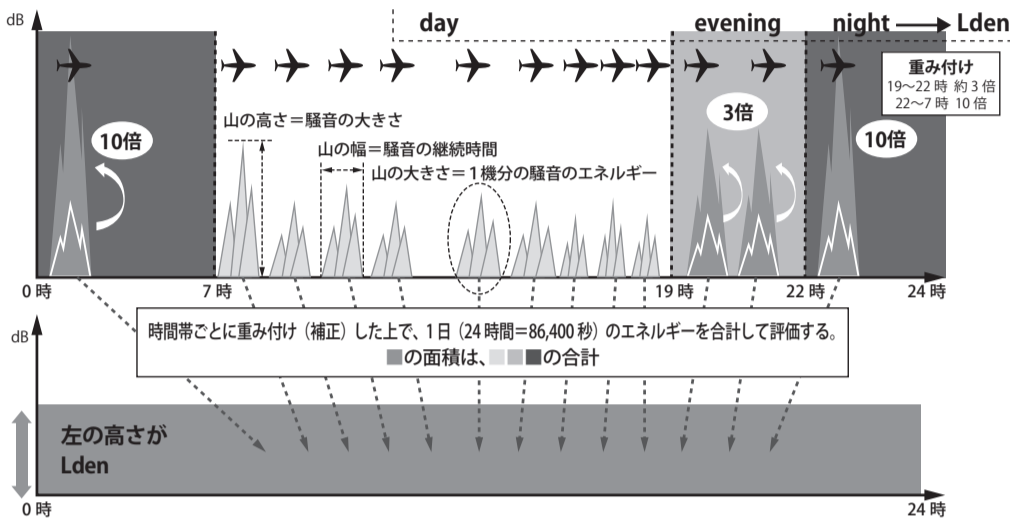
※1 環境基本法に基づく航空機騒音における環境基準として「Ⅰ：専ら住居の用に供される地域、基準値57dB以下。Ⅱ：Ⅰ以外の地域であって通常の生活を保全する必要がある地域、基準値62dB以下」と定められています。

※2 騒音環境と航空機騒音の程度についての詳細は5ページを参照。



■ Lden (エルデン) について

- ① 航空機騒音の評価指標として使われています(下図はイメージ)。
- ② 航空機から発生する騒音の影響は、季節ごとに滑走路の使用割合やダイヤが変わることがあるため、1年間の騒音の総エネルギー量で評価します。
- ③ 時間帯により感じ方が変わるため、よりうるさく感じる時間帯には一定の重み付け(補正)をします。
- ④ 日中(day)、夕方(evening)、夜間(night)で区分しており、騒音レベル(LA)とそれぞれの頭文字からLdenと呼ばれています。



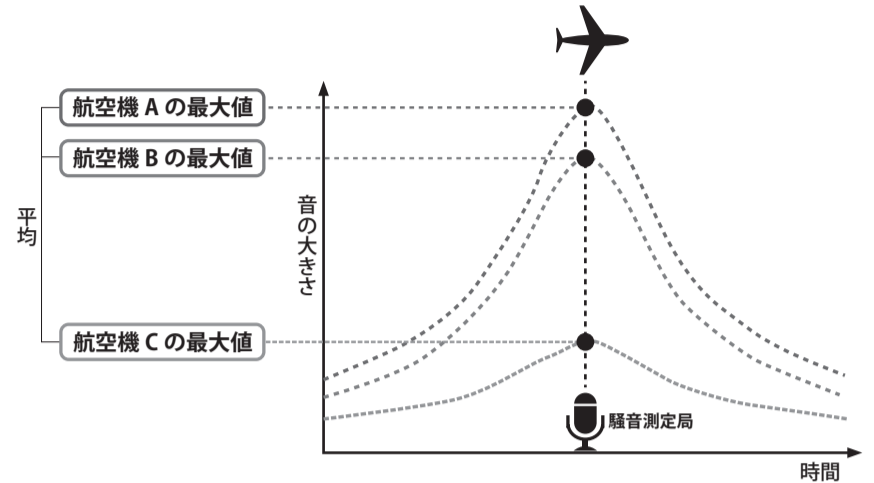
■ 航空機騒音における環境基準

地域の類型	基準値
I	57dB以下
II	62dB以下

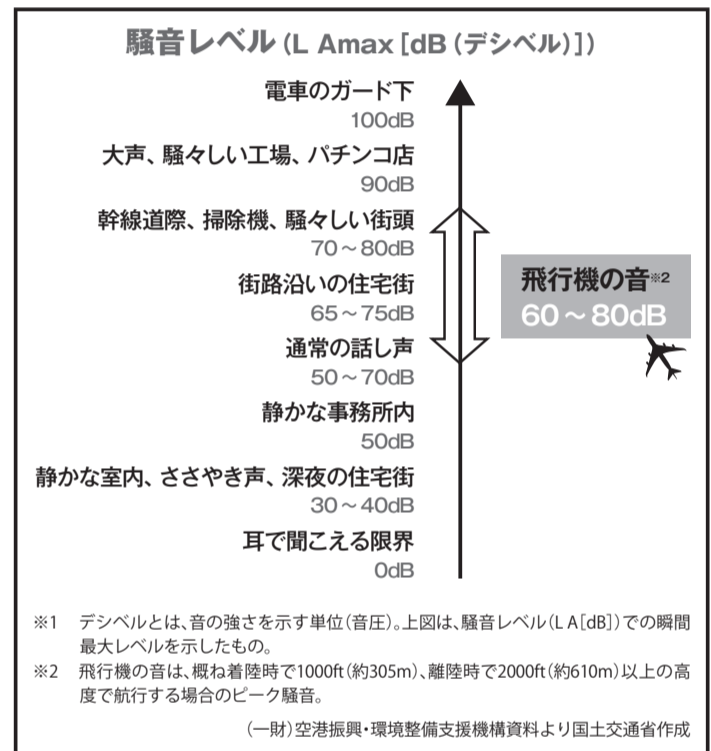
- I : 専ら住居の用に供される地域
II : I以外の地域であって通常の生活を保全する必要がある地域

■ 実測値の平均について

航空機の騒音は、気象条件、機体重量、エンジン出力など様々な要因によりばらつきが生じます。各航空機が通過したときに発生した騒音の最大値を「実測値」(L Amax: エルエーマックス)といい、すべての「実測値」を平均したものが「実測値の平均」です。



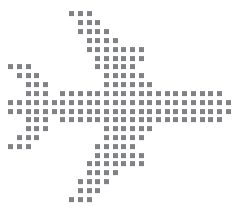
■ 騒音環境と航空機騒音の程度について



■ 騒音測定局ごとの Lden 値と機体サイズ別の実測値の平均 (2022年4月~10月)

単位: dB

測定局	着陸 / 離陸	Lden (2022.4 ~ 2022.10 の平均)	実測値の平均		
			大型機	中型機	小型機
① 第五葛西小学校 (江戸川区)	C 離陸	45.2	68.5	64.4	65.2
② 江東区東大島文化センター (江東区)	C 離陸	43.8	66.1	63.2	63.5
③ 国立医薬品食品衛生研究所 (川崎市)	B 離陸	56.6	82.8	82.8	83.6
④ 羽田小学校 (大田区)	B 離陸	46.5	71.7	72.6	72.9
⑤ 八幡木中学校 (川口市)	C 着陸	37.9	61.8	62.3	62.9
⑥ 岸町公民館 (さいたま市)	A 着陸	24.8	64.7	64.4	65.0
⑦ 袋小学校 (北区)	C 着陸	39.5	62.6	62.3	63.0
⑧ 赤塚第二中学校 (板橋区)	A/C 着陸	34.1	61.1	60.7	60.7
⑨ 練馬区職員研修所 (練馬区)	A/C 着陸	36.1	63.0	62.0	61.4
⑩ 千早小学校 (豊島区)	C 着陸	40.6	63.6	63.5	63.3
⑪ 落合第二小学校 (新宿区)	C 着陸	42.5	66.8	66.3	64.7
⑫ 小淀ホーム (中野区)	C 着陸	42.7	66.4	66.1	64.6
⑬ 広尾中学校 (渋谷区)	A/C 着陸	43.0	66.9	66.2	64.4
⑭ 田道小学校 (目黒区)	A 着陸	44.1	72.5	72.1	70.6
⑮ 高輪台小学校 (港区)	C 着陸	49.0	73.4	73.4	72.0
⑯ 東京都南部下水道事務所品川出張所 (品川区)	A 着陸	47.1	76.9	75.8	74.5
⑰ 東京都立産業技術高等専門学校品川キャンパス (品川区)	A/C 着陸	43.9	68.5	68.1	67.4
⑱ 東京都下水道局八潮ポンプ所 (品川区)	A/C 着陸	40.9	71.7	70.2	69.3
⑲ 大森第五小学校(大田区)	A 着陸	32.9	63.8	62.2	61.2



航空機の落下物対策と部品欠落に関する情報についてお知らせします

■ 落下物防止対策

新飛行経路において確認された落下物[※]は0件です。2018年3月にとりまとめた「落下物対策総合パッケージ」に基づき、関係者(国・メーカー・航空会社等)が一丸となって対策を実施しています。

※ 2023年2月末時点。地上(空港内で発見されたものを除く)で、部品または氷塊が発見された場合には「落下物」としています。



落下物防止対策の義務化



落下物の原因分析を強化



駐機中の機体を抜きうちでチェック



航空会社の部品欠落の報告制度を充実



全国の空港事務所等を通じ、落下物に関する情報を収集



落下物の原因者である航空会社への処分等の実施

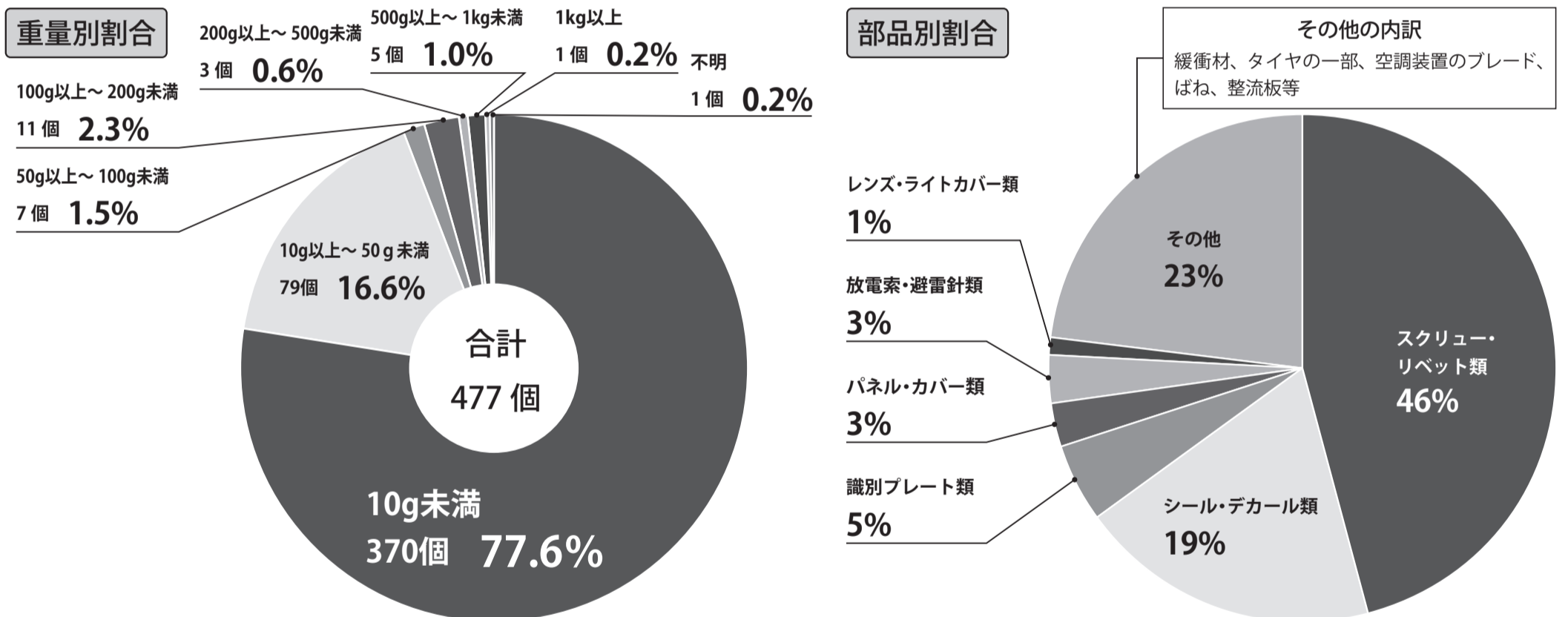


落下物による被害者に対する補償等を充実

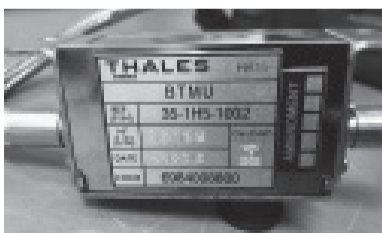
■ 部品欠落報告

部品欠落の報告制度により、羽田空港を含む7空港において2022年4月～2022年9月に報告された欠落部品の総計は477個であり、そのほとんどは100g未満、約8割は10g未満でした。

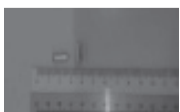
2022年4～9月における部品欠落の重量別・部品別割合



部品欠落の例



主脚構造部のラベル (識別プレート類)



リベット (留め具)



シール

- 部品欠落報告の約5割はスクリー、リベット類の留め具であり、重さは1g～10g程度のものがほとんど
- シール、デカール類の材質はアルミニウム、ゴム等であり、重さは1g～50g程度のものがほとんど
- 識別プレート類の材質はアルミニウム等であり、重さは1g～5g程度のものがほとんど
- パネル類の材質は複合材等、キャップ・カバー類はアルミニウム等であり、重さは1g～300g程度のものがほとんど
- 放電索、避雷針類の材質はアルミニウム、複合材等であり、重さは1g～20g程度のものがほとんど
- レンズ、ライトカバー類の材質はガラス、プラスチックであり、重さは150g～200g程度のものがほとんど

過去に他空港で発生した落下物事案や部品欠落については、航空会社においてメーカー等と連携して原因究明・対策検討を行い、国はその実施状況を指導・監督するとともに、他の航空会社へも情報共有や指示、必要に応じて落下物防止対策基準の拡充を行っており、再発防止を徹底しています。

羽田新飛行経路を飛行した航空機の航跡について お知らせします (全体的に想定経路の範囲内を飛行しています)

2022年4月1日～2022年10月31日の期間において、新飛行経路を飛行した航空機のうち、航空機の位置情報を確認できた航空機を対象として、航跡データを収集しました(位置情報を確認できなかった航空機及び一部のデータが欠測している航空機については、対象から除外しています)。



運航経路図に収集した航跡データを重ね合わせ、運航状況について確認しています。

なお、直近1カ月の航跡データについては、羽田空港飛行コースホームページにおいて、公表しています。→ <https://www.ntrack.mlit.go.jp/>

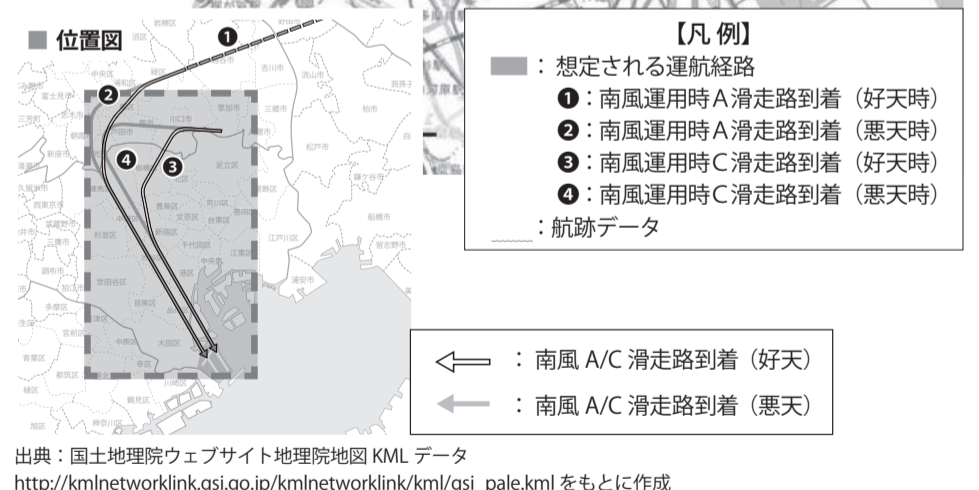
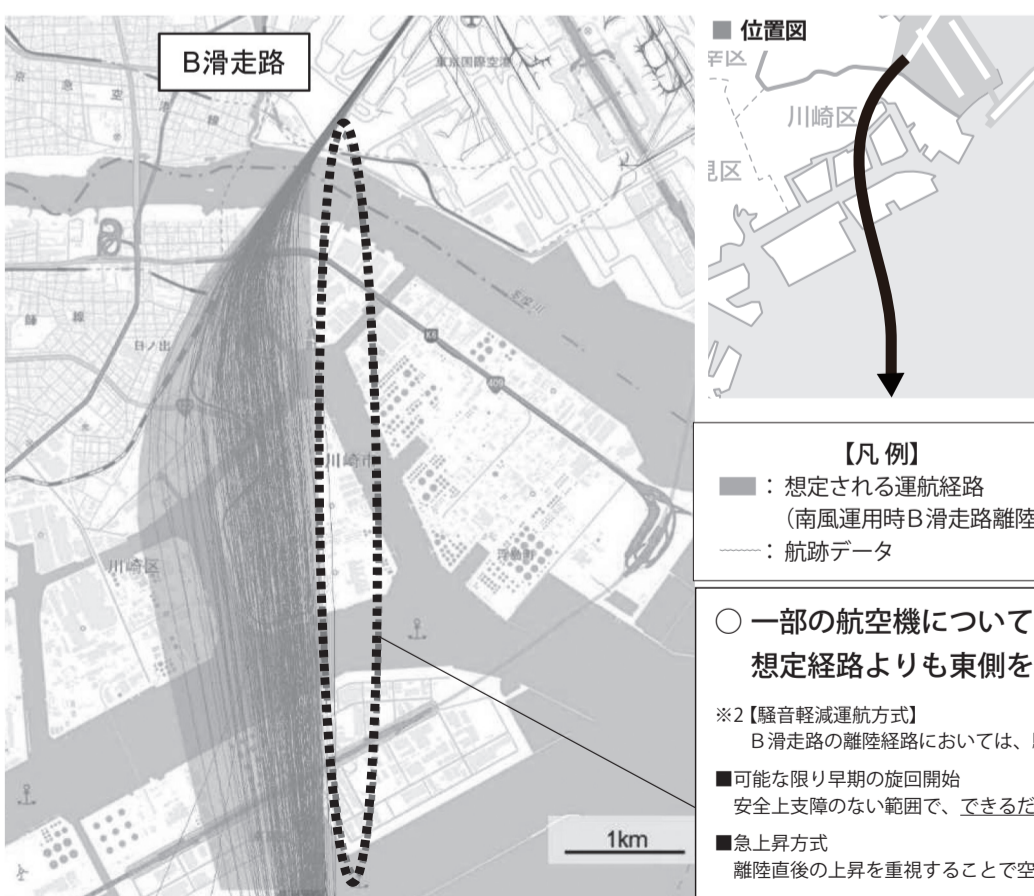
■北風離陸(C滑走路) 2022年秋季(9月) の航跡



■南風着陸(A/C滑走路) 2022年秋季(9月) の航跡



■南風離陸(B滑走路) 2022年秋季(9月) の航跡



出典：国土地理院ウェブサイト地理院地図 KML データ
http://kmlnetworklink.gsi.go.jp/kmlnetworklink/kml/gsi_pale.kml をもとに作成



ハネダ グローバル ウィングス

トピック

羽田空港跡地HANEDA GLOBAL WINGS内に『羽田エアポートガーデン』が2023年1月31日に開業しました。(宿泊施設・温浴施設は22年12月に先行開業)



羽田エアポートガーデン全景



グランドホワイエ

『羽田エアポートガーデン』は、24時間国際拠点空港に求められる多様な宿泊施設を有し、国際交流や都市観光機能を整備した羽田空港第3ターミナル(国際線)直結の複合施設です。

旅行・出張・MICE※等あらゆるシーンに対応する宿泊施設と飛行機や富士山を眺めながら楽しめる温浴施設のほか、約80店舗の物販店や飲食店があります。

また、併設するバスターミナルでは、羽田空港と日本の観光地をダイレクトに繋ぎ地域観光活性化に資する新拠点となっています。

『羽田エアポートガーデン』開業により羽田空港を訪れる国内外からのお客様が増えることが期待されます。

※MICEとは、企業等の会議 (Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行 (インセンティブ旅行) (Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議 (Convention)、展示会・見本市、イベント (Exhibition/Event) の頭文字を使った造語で、これらのビジネスイベントの総称です。

羽田空港エアポートガーデンバスターミナルが国内の様々な観光地を結びます

■伊勢 / 三重県



■新潟 / 新潟県



高速バス

■白馬 / 長野県



全国 30 便から順次運行を開始し、段階的に路線整備が進められています。

■青森 / 青森県



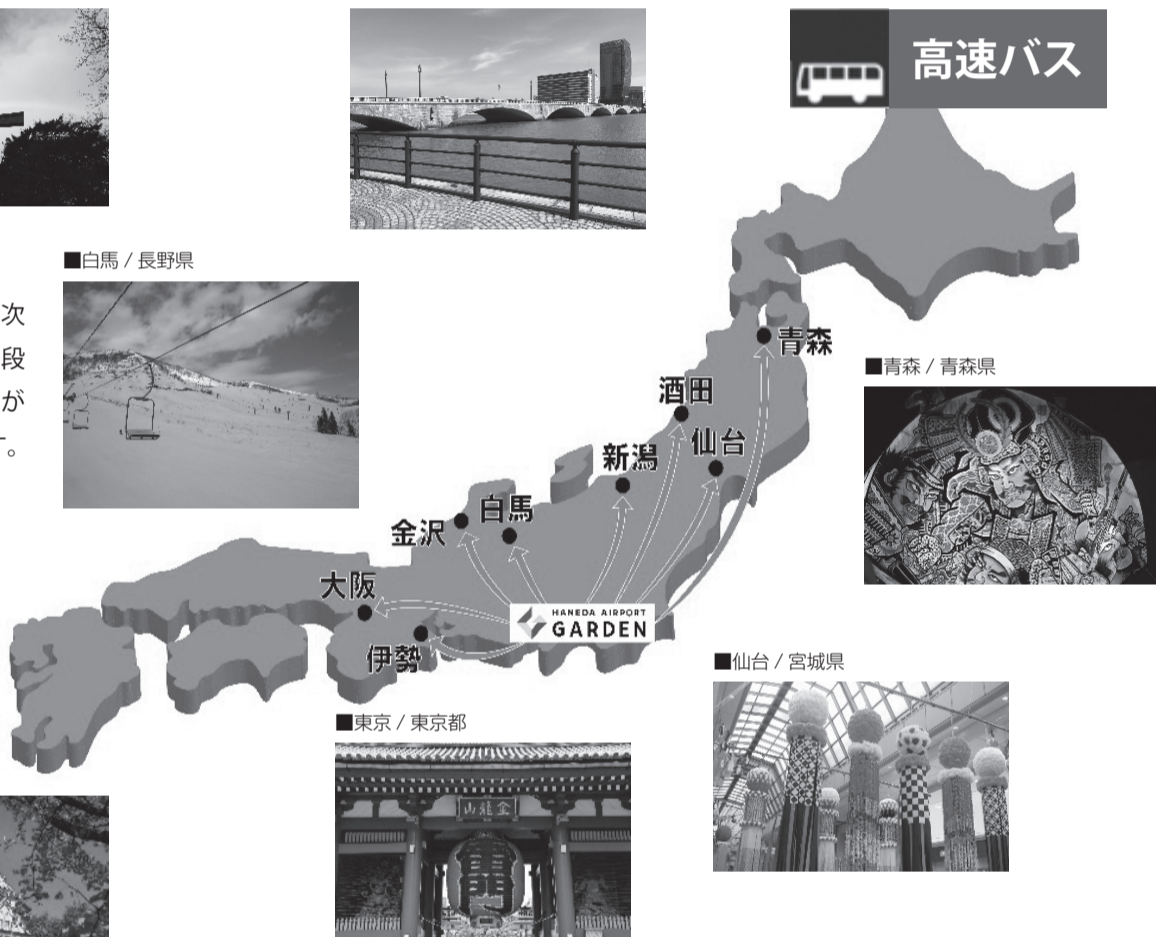
■仙台 / 宮城県



■大阪 / 大阪府



■東京 / 東京都



バスターミナル

航空機騒音・氷塊含む落下物等に関するお問い合わせは

Tel 0570-001-596

受付時間：7:00～20:00 [土・日・祝含む]

ナビダイヤルに接続できない方はTEL 050-3655-5960



現在の空港(滑走路)の運用状況や、過去の航跡図、過去の騒音測定局が観測した騒音値をご覧いただけるホームページを公開しています。

[羽田空港飛行コースホームページ](#)

検索

引き続き、情報提供を行ってまいります



本号でお知らせした内容をはじめとして、ホームページにて羽田空港に関する最新情報を掲載していますので、ぜひご活用ください。ご意見ご要望もこちらのホームページからメールフォームで直接投稿できます。

[羽田空港のこれから](#)

検索